

クローバーグループ連携事業『俳句』：ちやまを詠む…

第十二回 令和四年度 秋冬（九月～二月）の部 入賞作品

テーマ 『勝山の四季折々』を詠む

選者

勝山市俳句協会 会長

勝山市俳句協会 副会長

石畝 千恵子

はばた みち恵

特選 黄金田と共に輝く城の鯨 岐阜県可児市 村瀬 真由美

選評

田園に聳える天守とその鯨。華やかな金色に映え眩しいほどだ。この平城は見るものを圧倒する。百姓は米で城を支え、城は武士で国を守った。黄金田に豊潤な暮らしを想像する。時代は往々に人を裏切るが、こゝうあってほしいと願う一句に仕上がった。現代につながる思いである。

特選 苔生すや石の息づく秋時雨 群馬県渋川市 金子 喜美江

選評

平泉寺は一向一揆により灰燼に帰し、その後再興はない。しかし石は動かない。その石に作者は命を感じた。数百年を苔生しつつ生きながらえて来たのだ。耳を澄ますと石の鼓動がする。秋の時雨に苔の衣を纏って。絵画より、写真より見事に平泉寺を讃えて頂いた素晴らしい句になりました。

特選 秋の陽の艶織り込むやゆめおーれ 福井県勝山市 野尻 敦子

選評

ゆめおーれは『旧木下機業場』で絹織りの工場だった。輝く絹の色は「艶」ある。作者は秋の陽光を織り込んだと表現した。桑の成長は蚕につながり、その成長は糸へ。そして反物へ。思い出もさることながら、着物の始まりは太陽といえる。生物の命まで感じられる見事な一句です。

入選 あおぞらにきれいなしろがすてきだな 三重県松阪市 西山 奈那

入選 苔をさけ紅葉を踏んで詣でけり 大阪府大阪市 中島 雄一

入選 一揆ありし寺を偲べば秋の風 石川県加賀市 西原 友一

入選 あかトンボともだちよんでおにごっこ 福井県勝山市 前田 悠貴

入選 寒空の越前大仏あたたまる 滋賀県野洲市 島林 尚子

入選 キートントントン音も寒さにふるえてる 福井県鯖江市 小泉 浩二

入選は順不同